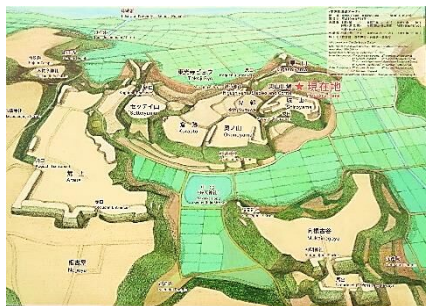


令和5年度 印西市民アカデミーだより 第15号

講座 16：歴史散策⑤本佐倉城跡・印旛歴史民俗資料館他

12月9日(土)、午前中は千葉氏の本城があった国指定史跡本佐倉城跡(酒々井町、佐倉市)を「酒々井町ふるさとガイドの会」の案内で散策、午後は印旛歴史民俗資料館と国重要文化財指定泉福寺薬師堂(印西市岩戸)を見学しました。

千葉氏は、鎌倉・室町幕府のもとで下総を中心に一大勢力を張り代々「千葉介」と呼ばれ、下総守護職として関東有力大名のなかでも筆頭の地位にあった一族です。享徳3年(1454)に



本佐倉城跡(内郭群)全体図

始まる古河公方と関東管領上杉氏が対立した享徳の大乱が関東全域に広がり、千葉氏もこの戦乱の中で内紛が起こり、本宗家が滅亡し、一族の岩橋輔胤が継承しました。この輔胤の子孝胤の時期(文明年間 1469~1487)に、千葉氏の本拠を鎌倉時代以来の千葉(猪鼻城)から佐倉(現在の酒々井町周辺)へ移し、新たに築城したのが本佐倉城です。本佐倉城は標高約36mの台地に築かれ、東西約700m、南北約800m、面積35万㎡におよぶ城域の中に10の郭をもつ巨大城郭です。北総台地の特徴である台地とその奥深くまで谷津が入る複雑に入り組んだ地形を利用し、台地を削り、谷を埋め、空堀や土塁を巧みに配し郭を作った「土の城」です。その後、天正18年(1590)豊臣秀吉の小田原征伐において、千葉氏は小田原北条氏に味方し破れ滅亡し、これにより本佐倉城も廃城となり、約400年にわたる下総国(現在の千葉県北部と茨城県南部)の支配者としての歴史は、幕を閉じることになりました。

本佐倉城跡の発掘調査は平成15年から始められ、城山郭からは城主が執務や接待をする空間と考えられる主殿や会所と推測される大型の掘立柱建物跡、櫓跡、門跡、堀跡が見つかりました。残念ながら当時の建造物は残っておらず、ガイドさんの説明を聞きながらどんな施設があったのか想像しながら散策した90分間でした。実際に散策してみるとその広さに驚くとともに防御の工夫が至るところに施されていることがよくわかりました。今日まで残っていたことが奇跡！



厳重に守られている東山虎口

印旛歴史民俗資料館は、印西市の民俗資料や古墳の発掘物、印旛沼で使われた漁労具や農具等が展示されています。コンパクトにわかりやすく展示されています。是非一度は見学を！！

泉福寺薬師堂は、正面側面ともに3間の堂で、屋根は茅葺寄棟造です。建立年代は建築手法から室町時代末期と考えられ、貞享2年(1685)に現在の地に移築されました。栄福寺薬師堂(角田)、宝珠院観音堂(小倉)とともに印西市の宝です。



茅葺屋根の緩やかな曲線が見事！